

研究種目：基盤研究 C

研究期間：2007～2009

課題番号：19592547

研究課題名（和文）

看護職者のための糖尿病女性のリプロダクティブヘルスに関する支援マニュアルの開発

研究課題名（英文）

Manual Development for Those in Nursing Profession Who Support Diabetic Female Patients' Reproductive Health

研究代表者

田中 佳代 (TANAKA KAYO)

久留米大学・医学部看護学科・講師

研究者番号：10289499

研究代表者の専門分野：生涯発達看護学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：糖尿病女性 リプロダクティブヘルス 看護職者 マニュアル

1. 研究計画の概要

【目的】看護職者が糖尿病女性のリプロダクティブヘルスに対するセルフケアの習得への支援と心理・社会的側面からの支援を実施できる「看護職者のための糖尿病女性のリプロダクティブヘルスに関する支援マニュアル」の開発を行う。また併せて、看護職者のための教育セミナーを開催し、支援マニュアルの普及方法に対する検証も踏まえた上で、有効性のあるマニュアルの開発を行う。

【方法】

(1) 支援マニュアルの開発

① 支援マニュアルの概要の検討

文献検討や専門家、患者会や家族との意見交換、支援を行っている病院の視察・インタビュー調査、糖尿病女性へのインタビュー調査を行い、概要を検討する。

② 支援マニュアルの試案作成

概要を基に、糖尿病女性のリプロダクティブヘルスの看護に携わる専門家と共同でのマニュアルの執筆を行い、原稿を集約した後、研究者にて編集・推敲作業を行う。

③ 支援マニュアルの試案の評価

専門家、患者会や家族との意見交換、協力の得られた施設へのマニュアルを基にした支援の実施と評価にて試案を評価する。

④ 支援マニュアルの完成

(2) 糖尿病女性のリプロダクティブヘルスに関わるセミナーの開発

① セミナーの概要の検討

文献検討や専門家、患者会や家族との意見交換を行い、概要を検討する。

② セミナーの試案作成と実施・評価

概要を基にセミナーの試案を作成し、研究者が企画・運営を行い、専門家である研究協力者と共に実施する。受講者は、リストアップした施設へアナウンスし、参加希望した看護職者約 100 名とする。評価は受講終了時、1・3 ヶ月後に知識・意識に関するアンケート調査を行う。

(3) リプロダクティブヘルスに関する糖尿病教室の開発

① 糖尿病教室の概要の作成

文献検討や専門家、患者会や家族との意見交換を行い、概要を検討する。

② 糖尿病教室の試案の作成と実施・評価

概要を基に糖尿病教室の試案を作成し、研究者が主体となり実施する。対象は協力の得られた施設、サマーキャンプで18歳以上49歳までの1型・2型糖尿病女性とし、評価は参加者へのアンケート・インタビュー調査にて行う。

* 完成した糖尿病教室試案は、支援例として支援マニュアルに掲載する

2. 研究の進捗状況

(1) 支援マニュアルの開発

専門家、患者会や家族との意見交換、病院の視察・インタビュー調査、糖尿病女性へのインタビュー調査を行い、マニュアルの概要を検討し複数の専門家と共同で執筆を開始した。原稿が予定通りに集まらず遅れているが現在、編集・推敲作業を行っている。

(2) セミナーの開発

当初、平成 22 年度に予定していたが、研究のプロセスで知識の普及だけでなく、支援する者の意識の改革も必要との知見を得、それには当事者である糖尿病女性と看護職者が直接話しができる双方向性のあるセミナーが効果的との検討から、「糖尿病を持つ女性と看護職者のためのセミナー」を開発した。

平成 21 年 1 月 18 日に福岡、10 月 17 日東京、平成 22 年 1 月 31 日京都で実施し、参加者は NPO 法人日本 IDDM ネットワーク会誌、日本糖尿病療養指導士認定機構HP、日本糖尿病学会誌等で公募し、療養指導士認定更新の研修単位（2 群 2 単位）の認定を得た。合せて 1 型糖尿病女性 41 名、家族 11 名、看護師 18 名、助産師 16 名、管理栄養士 3 名、医師 4 名の参加を得た。内容は、医学的知識、糖尿病女性の性と妊娠・出産の実態調査結果、出産体験談の後、糖尿病女性と看護職者が直接話すグループディスカッションを糖尿病看護認定看護師や助産師がファシリテーターとなり実施した。アンケートでは全員がセミナーは今後役に立つ、共に話し合う方法は効果的と回答した。ファシリテーターと連携も図れ今後のネットワークに繋がった。

(3) 糖尿病教室の開発

専門家、患者会等との意見交換で素案を検討し、平成 21 年 8 月 9 日に熊本の 1 型糖尿病サマーキャンプで「一緒に学ぼう糖尿病と女性のカラダ、そして妊娠・出産」のテーマで中・高校の 1 型糖尿病女性と母親等を対象に実施した。アンケート調査は実施できなかったが、若い時から正しい情報・知識と併せて意識を持つ必要性が参加者から述べられた。糖尿病教室試案は支援例としてマニュアルに掲載する。

3. 現在までの達成度

③ やや遅れている。

(理由)

マニュアルの執筆を複数の専門家に依頼したため、当初の予定日に原稿が集まらず、平成 21 年度に予定していた研究協力施設によるマニュアルの評価が遅れているため。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 支援マニュアルの開発

マニュアルの評価のための、協力施設でのマニュアルに基づいた支援の実施期間を 6 カ月から 3 カ月に短縮して行うこととし、その評価を踏まえた最終的なマニ

ュアルの完成は 3 月を予定している。

(2) セミナーの開発

前年度の評価を踏まえ、7 月 18 日に仙台での実施が計画され、既に参加者の募集を開始している。また、12 月にも名古屋で行う事を予定しており、関係機関への協力も確認できている。これらの実施を踏まえて、最終的に看護職者のリプロダクティブヘルスの支援の意識向上のための教育セミナーを完成させ、併せて今後のネットワークの構築についても検討を重ねていく。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 0 件)

[学会発表] (計 4 件)

- ・ 田中佳代、中嶋カツエ、飯野矢住代、福井トシ子、1 型糖尿病女性のリプロダクティブヘルスに関する支援のあり方～糖尿病女性と看護者の双方向性のある支援～、第 29 回日本看護科学学会学術集会、2009 年 11 月 28 日
- ・ 田中佳代、中嶋カツエ、加藤陽子、飯野矢住代、青木美智子、糖尿病を持つ女性と看護職者のためのリプロダクティブヘルスに関わるセミナーの実施と評価、第 14 回日本糖尿病教育・看護学会、2009 年 9 月 20 日
- ・ 田中佳代、中嶋カツエ、加藤陽子、飯野矢住代、堀大蔵、看護職者のための糖尿病女性のリプロダクティブヘルスに関する支援マニュアルの開発 糖尿病女性と家族を対象とした予備的調査、第 24 回日本糖尿病・妊娠学会、2008 年 11 月 28 日
- ・ 田中佳代、中嶋カツエ、加藤陽子、飯野矢住代、看護職者のための糖尿病女性のリプロダクティブヘルスに関する支援マニュアルの開発-予備的調査-、第 13 回日本糖尿病教育・看護学会、2008 年 9 月 7 日

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕